

会

報

社団法人日本病理学会

第 173 号 平成 14 年 (2002 年) 4 月刊

○ 平成 14 年度理事長, 常任理事就任挨拶

理事長 森 茂郎

ご指名をいただき, 4 月 1 日より理事長ならし運転を始めさせていただきます。この先 2 年間, 常任理事ともども精一杯頑張って職務を遂行する所存でございます。ご支援のほど, どうかよろしくお願いいたします。

はやいもので, 2002 年度は, 学会が法人化して 4 年目になります。法人化という組織替えは, 我が国の病理学を新しい時代の医療, 医学に適合させるための努力であったわけで, そこに会員の大きな論議と決心が発揮されたことは記憶に新しいところです。法人化を成し遂げたことがもたらした成果は目に見える形であがっているように思います。またこの過程で, 会員の間にエネルギーが蓄えられてきていることを実感します。このエネルギーこそが我が国の病理学を新世紀に展開させるために私共が依って立つ原点であると考えております。内外に山積する諸課題に対して, あらためてこのエネルギーを信頼し, これに依拠して立ち向かって行く所存でございます。

現在我が国や欧米諸国に展開している学術, 医療の変革は, 自己責任, 個人の意志による選択, あるいは個人レベルでの自由競争の原理などといった現代社会の新しい思想・理念を根底にもち, そこから発していると考えられます。これらの新しい思想・理念は, 成熟した市民社会に見合った, 個人を大切に, そこに基盤を置いた健康なものでありますが, 医療・医学の社会に長く存在したる伝統的な考え方とは根本的に異なるものであります。我が国の医学・医療の世界においてはこの伝統的考え方が非常に強かったので, その分変革に対応することに困難性が伴ってまいりました。(もちろんこの困難性は医療だけの特殊事情ではなく, 我が国全体の行き詰まりと言われている事象のおおかたにおいて, その根底にこれがあるわけです)。このような旧来の思想・理念は, 医学研究, 医療のための組織の作り方, 人事から経理の方法などといった具体的な部分において, またこれらの基礎となる考え方のあらゆる細部にまで, なお強い影響を維持していると思えます。また他ならぬわれわれの心の中にも, それがなお頑強に巣くってい

るとすら思えます。(もっとも, 次世代の方々には, それは既に克服されており, 我々の世代はすでに次世代に凌駕されているかもしれません。しかし, しばしばそうでないように思える局面があることも事実です)。いずれにしても, 当面そこにさまざまな困難性があることは当然として, なおかつ社会はグローバルに言えば上に述べた現代的思想・理念の方向にまちがいがなく進みつつあるわけであり, その行きつく先について可能なかぎり見通しを立て, そのなかでベストの選択に向かって前進することは, この過渡期を生きて行く現代の医療人, 研究者 (病理学会会員とよびかえても, 市民とよびかえてもよいわけですが) にとって, それ以外の選択のない, もっとも基本的な生きざまでであると思っておる次第です。そして学会活動もこれ以外の何者でもないと考えております。

学会の社団法人化に尽力された桜井元理事は, 学会には絶えず新たな課題があり, それを解決するための不断の変革の意志と行動が必要であるということ, ことあるごとに我々におっしゃってこられました。私もまったくそのとおりと思えます。山積する課題にこのような形で立ち向かう機会を与えていただいた会員諸氏の期待を裏切らないよう, 精一杯努力することをお約束し, またそのような仕事を会員のみなさまと行ってゆけることを幸せとまっていることをここにあらためて申し述べさせていただきます。

会員諸兄には, あらゆる機会, 媒体を使って, 御意見, ご提案, ご批判等をお寄せいただきますようお願いいたします。私も常任理事会も, 提出された御意見, ご提案, ご批判について, それらを直視し, 論議し, また可能な部分から実行することを使命と考えているということ, あらためてここに申し述べさせていただきます。

財務担当理事 坂本 穆彦

平成 14 年 4 月より 2 年間, 表記の職務を担当させていただきます。微力ですが全力をあげてつとめる所存ですので, 会員の皆様の御指導・御協力のほどよろしくお願いいたします。

財務に関しましては, 学会費納入の際の金融機関よりの自動引き落とし制が導入されておりますので, 一層の普及

をはかり、事務局の事務量の軽減化に結びつけたいと思います。本部・支部両会計の有機的関係のために、繰り越し金の扱いなどいくつかの微調整が必要ですので、できるだけ早い機会に対応いたします。全体として、会費に見合うだけの学会活動を展開する必要がありますが、会員からみてこの会費では安いと思われるような運営を目指したいと希望しております。

常任理事としては常任理事会において“理事会から委任された事項および緊急に処理をすべき事項”を取り扱うという重責を担っております。会員個々ならびに学会をとりまく諸情勢に適切・迅速に対応する必要があります。学術研究・病理業務・卒前卒後教育などどれをとっても重要課題が山積しており、かつこれらは複雑に絡みあっています。問題点を的確に抽出し、かつそれに見合った対応策・解決策とセットで提示するという作業を各分野でつみ重ねてゆくことが強く要求されていると認識しております。

私自身、前医療業務委員長として主に病理業務関連事項に関与してきた関係で、担当委員会が進めつつある、新しいコンサルテーション・システムの構築、および新規事業としての病理医の就職情報の提供の立ち上げを支援する作業にとりかかっているところです。このように目で見えるかたちの成果を積み上げていくと同時に、編集作業などのように現在の質を維持し、かつよりよい方向を目指すという活動にも目配りをしてゆくつもりです。

学術・研究担当理事 廣橋 説雄

学術・研究担当理事に御指名頂き大変光栄です。

病理学は、診断病理学を推進して医療の質の向上に寄与すると同時に、疾病に関する分子レベルでの知見を組織・個体において統合して病因・病態の理解を深め、疾病の克服に寄与するという極めて大きな使命を持っています。

私は、若い会員の方々に、病理診断の基盤となっている形態を中心とした豊富な情報と今大きく展開しようとしている分子医学を結びつけ成果を挙げるのは自分達であるという強い確信をお持ち頂きたいと思っております。

学術・研究分野には、学術委員会と研究推進委員会があります。

学術委員会は、日本病理学会総会の宿題報告の担当者の選出、秋期特別総会のA・B演説ならびにシンポジウムの選考を主な任務にしています。これらのプログラムが公平かつ適切に選考されることは、極めて重要であります。会員の学術・研究活動が総会に十分に反映され、その内容が診断病理学としても疾病克服のための科学としても豊かであること以外に、若い世代を病理学に、そして病理学会に引きつけるものは無いと思っております。

既に秋期特別総会のA・B両演説は選考方法が定着して

います。応募演題は学術委員会の中の複数のレフェリーによる詳細な検討と委員全員による合議により、抄録だけでなく発表論文までの検討を加えることで選考されております。多数の応募があり、病理学会における中堅の活躍の場として極めて重要なプログラムになっています。

私は、宿題報告も公募制を徹底し、A・B両演説と同様に選考することが可能と考えています。これまでも公募の門戸を開くなど改革がなされてきましたが、実際には他薦による選出が多く、その推薦の主体は学術委員でありました。勿論この方法でも素晴らしい宿題報告が選ばれてきたことは御存知のとおりですが、学術評議員が宿題報告に自ら応募する形に変えれば、一層会員の研究意欲を鼓舞できると考えます。学術委員会の委員各位の御賛同が得られれば、自薦による応募のみを受け付け、学術委員は第三者として評価、選出する役割を果たしたいと考えております。どうぞ病理学会のさらなる活性化のためにも積極的な応募をお願い致します。

研究推進委員会は、より広く病理学における研究推進のために学会として何ができるかを検討し、実行する役割を担っております。総会の中で特別のシンポジウムを企画したり、分子病理技術の講習会を実施しております。講習会については本年の予定が病理学会ホームページに掲載されておりますので、是非御活用下さい。

私は、病理学会会員の研究は、この学会の中だけで情報交換され業績として蓄積されるだけでは不十分と考えます。基礎から臨床までの他分野との交流、国境の無い学問の世界での貢献が必要です。このためには、臨床家から先端生命科学までの研究者と病理学会会員、とりわけ若い会員が交流する場、知り合いになる場をつくることが極めて重要と常々思っております。各会長が総会のシンポジウム等で取り込まれるのに加えて、もし可能ならば、上記の目的のための余裕のある特別カンファレンスを総会とは別に病理学会が主催する夢を抱いています。

以上の様な考えに御賛同だけでなく御批判を含め御意見を頂ければ大変ありがたいと思っております。最後に誠に微力ですが、皆様の御協力を得て任務を果たしたいと思っておりますので、何卒よろしくお願い致します。

病理専門医部会担当理事 長村 義之

4月1日より病理専門医部会を担当させていただいております。本部会のカバーする内容が実に多岐にわたっており、様々な学会内外の重要な事項と関連していることを再確認しております。さて、本学会も平成11年1月7日に社団法人化されて4年目を迎え、「人格ある団体」として認知され、これからの発展が期待されているところであります。

医療全般を取り巻く情勢は決して楽なものではないので

すが、病理診断の保険点数については、迅速診断は下がったものの、組織検査、細胞診は増額となり、また HER2 蛋白検査〔免疫組織化学〕は新規に取載となりました。医療における病理診断の重要性が社会的にも認識されてきたものと受け止めております。私は、先日の病理学会の学術評議員会では「病理学会への若い人材確保の魅力としての病理専門医」「患者のメリットを考えた病理診断のあり方の追求」「一人病理医よりグループ病理医」などを述べさせていただきました。しかし、先般の国立大学附属病院事務長宛ての文書を見ても、病理診断の医療における取り扱いも予断を許さない状況です。また、病院の広告規制の緩和、卒後研修の義務化など医療のあり方、卒後教育も大いに革新の時を迎えています(以下のアクションをご覧ください)。このような状況にあればこそ我々は、“病理とは何か”を医療の中で大いに訴えて行く必要があります。また若い医学部卒業生にとって“病理の魅力”は何かを考えたとき、病理専門医を大いに印象付けたいと思っています。市中病院では常勤病理医の求人が増加していますが、我々は社会への責任において病理医を増やして行く必要があります。また、諸外国の病理学会へ出席する際にいつも感ずることですが、日本ではまだまだ女性病理医が少ない、全国的には医学部に女子学生が増加してきた現在、女性医師へのアピールも進めたいと思っています。このような背景において病理専門医が医療において正しくかつ有効に機能するには、患者への働きかけ、他の臨床科(内科、外科など)、関連学会(臨床細胞学会、臨床検査医会など)との連携も極めて重要と考えます。浅学非才ではございますが、会員諸氏のご指導ご鞭撻を得ながら、私も日本病理学会のため大いに頑張る所存でございます。どうぞ宜しくお願い申し上げます。尚、ご意見など病理学会事務局へ E-mail (jsp@ma.kcom.ne.jp) などでお寄せ下さい。

病理専門部会としての「当面の課題へのアクション」

さて、部会の皆様もすでにお考えのように、我々病理専門医にとって (1) 広告の規制緩和、(2) 平成 16 年からの医師の研修義務化 への対応が急務です。(1)については、すでに 4 月 1 日より病理専門医も、看板、印刷物、ホームページなどで広告が可能となっています。専門医認定制協議会へ確認しましたが、各病院は常勤の病理医がいる場合、病理診断(科、部など)担当医師 病理太郎・花子(日本病理学会認定病理専門医)と広告することが出来ます。これに際し、病理専門医の厚生労働省への登録、病理学会員全員の名簿の提出(印刷物ではなく Web で)が求められています。学会として早急に対応して行く予定です《病理学会ホームページをご覧ください》。(2)については、平成 16 年度から開始に向けて財源などの検討がなされているところですが、病理学会としては義務化研修の中に病理診断学がカ

リキュラムとして組み込まれるように申し入れをしてあります。この際に専門医部会としては、専門医試験の受験資格の設定が重大な問題となります。これについても専門医認定制協議会と話しをさせていただいておりますが、病理学会としては義務化研修を含めて「5 年間で病理診断学の習得」を受験資格とするのが一案と考えます。その際には、病理診断学の習得はフルに 3 年間となります。卒業時大学院への入学を希望した医師の病理学への吸い上げなども考え柔軟な対応も必要と考えます。病理診断学の研修内容など全国規模で考える必要があり是非諸先生方のお知恵をお借りしたく宜しくお願い申し上げます。

付記：HP の事務局のアクションプランもご覧ください。

1. 医療に関する広告の規制緩和について

厚生労働省では、わが国の医療を一層質の高い効率的なものとしていくために医療に関する情報開示を進め、患者の選択の拡大を図ることとした。この度、厚生労働省告示により平成 14 年 4 月 1 日から医療に関する広告規制が緩和された。

各医療機関は、医療の内容・構造設備・人員配置・体制整備等に関する情報の広告ならびに厚生労働大臣の承認により各学会で認定する専門医の広告を行えることとなった。

社団法人日本病理学会では、病理専門医の広告が行えるよう実施に向け、情報の収集、関係資料の作成に着手した。なお、詳しいことは追ってお報せいたします。

(1) 日本病理学会の広告

- ① 社団法人日本病理学会は、厚生労働大臣に届け出を行うことによって病理専門医資格を有する団体であることを広告できる。
- ② 日本病理学会は、定められた書式に資料を添付して厚生労働大臣に届け出を行う。
- ③ 届け出の受理の際に厚生労働省による専門医告示に定める基準の審査に当たって、専門医資格の客観性を担保するため、日本病理学会の意見聴取が行われる。
- ④ 厚生労働大臣から承諾があったときには、会報等により直ちに広報する。

(2) 医療機関の広告

- ① 医療機関が広告できる事項が追加された。
- ② この中に医療の内容に関する情報として専門医(本学会関係では、病理専門医)がいることを広告できる。
- ③ 病理専門医は、(例) 医師 病理太郎(日本病理学会認定 病理専門医)と公表できる。ただし、公表は日本病理学会の通知を待ってください。

2. 国立大学附属病院の医療提供機能強化をめざしたマネジメント改革について

明後年に予定されている国立大学の独立行政法人化にむけて、国立大学医学部附属病院長会議は、表記の提言を本年3月に公表いたしました。全体の論調は収益をあげることに主眼がおかれた提言となっており、本学会としても受け入れかねる内容が書かれています。

国立大学附属病院での動きは他の国立病院や私学・民間の病院へまで重大な影響を及ぼすものと考えられます。

この様な状況の中で、本学会としては理事長名にて提言の中にある問題点を指摘し、“見解”として提出いたしました。以下にその全文を掲載します。

学会員の皆様は、各々の勤務先で近い将来、提示される改変案が、上記の提言に沿ったものであると判断された際には、この“見解”に本学会の意向がこめられていることをふまえて対応をお願いいたします。

なお、本件に関するご意見がありましたら、学会事務局までお寄せ下さい。

平成14年4月19日

(社)日本病理学会
常任理事会

平成14年3月20日

国立大学医学部附属病院長会議
常置委員会委員長
千葉大学医学部附属病院長
伊藤 晴夫 先生

社団法人日本病理学会
理事長 秦 順一

“国立大学附属病院の医療提供機能強化を目指したマネジメント改革について(提言)”に対する(社)日本病理学会の見解

国立大学医学部附属病院長会議常置委員会より提言された改革案には見るべき点もあるが、医療の質や医学教育・研究に対する視点が欠如しており、中央診療部門に関しては大きな問題点をはらんでいる。

専門・細分化した診療体系のなかでは中央診療部門がきわめて重要な役割を果たしている。特に、高度先進医療を推進する国立大学医学部附属病院ではなおさら重要度が高い。市中の病院と比較して中央診療部門専任の医師を確保することも容易であり、独立行政法人化してもその状況に変化はない。然るに、提言において中央診療部門に示された改革案は1) 部長・副部長の人事、2) 臨床検査技師などの診療支援部への所属、3) 検査の委託、である。

診療科においては各講座教授が必ずしも診療科の責任者ではなく、診療に専任する者を診療科長とする案が示され

ているが、病理部に関しては病理部長等の医師の構成員は基礎医学の病理学講座教員の併任とすることが提案されている。病理診断が医行為である以上、むしろ診療科と同様に病院病理部に専従する病理医を責任者とし、病理診断の質を向上・維持し、病理医を育成する必要がある。診療支援部として臨床検査技師、放射線技師、薬剤師を統括する部門を設置し、人員配置を流動的、有効に行うことを目指すとあるが、専門性が高く、異なる職種を一括して管理することには無理があり、効率的ではない。同じ臨床検査技師としても病理部技師は特に専門技術の必要性が高い。病理・細胞診標本作成の外部委託は病理学的確定診断や臨床診断の検証を円滑、かつ十分に実施することを不可能にすることになる。検査センターにおける病理診断の多くは非常勤医によりなされ、その責任のあり方が問われており、むしろ人員を有している国立大学医学部附属病院病理部が独立行政法人化に際し専任病理医の常駐しない近隣の病院の病理診断を受託する方向に進むことも考える必要がある。

本提言に決定的に欠落しているのは医療の検証にかかわる病理解剖やCPCその他のカンファレンスについて全く考慮が払われていないことである。EBMに基づいた卒前教育や卒後研修の必修化にあわせて病理解剖やCPCの重要性が論じられている。大学附属病院でも事情は全く同様である。大学附属病院における医療の密着性が問題とされているが、医療評価として病理解剖の意義は重要である。基礎医学の病理学教室が病理解剖を請け負うという形態はきわめて古いものであり、十分なスタッフと機能を備えた病理部が客観的に判断することが医療過誤の防止につながるものである。

国立大学病院がわが国医療の質の向上・維持に果たした役割や高度先進医療に取り組んできた経緯に鑑み、また提言の他施設にあたる影響も大きく、慎重な対応を望むものである。

3. 各種委員会活動状況

2月28日の学術委員会で、本年度秋期特別総会のA演説、B演説を決定した。それぞれ21題、3題の応募があり、以下のとおり11題、3題が採用となった。

A 演説

1. 金井 弥栄 (国立がんセンター研究所病理部) ヒト多段階発がんにおけるDNAメチル化の変化
2. 范 江霖 (筑波大学基礎医学系病理学) トランスジェニックウサギ・モデルの開発及び動脈硬化研究への応用
3. 長嶋 洋治 (横浜市立大学医学部病理学教室) 腎細胞癌の分子生物学的研究: VHL 遺伝子変異および細胞外基室蛋白 SPARC を中心に
4. 遠藤 泰志 (済生会新潟第二病院病理検査科) 胃分化

型腺癌の細胞形質と遺伝子異常

5. 仁木 利郎 (東京大学医学系研究科人体病理学分野) がん浸潤と炎症・創傷治癒との類似性: 肺腺がんにおける laminin-5 と cox-2 の発現解析から
6. 田中 伸哉 (北海道大学大学院医学研究科分子細胞病理) 癌化のシグナル伝達機構の解析—アダプター分子 Crk の2つの役割
7. 北澤 荘平 (神戸大学大学院医学系研究科展開医科学領域生体情報医学講座分子病理学分野) エピジェネティクスによる遺伝子発現調節機構の解析: 病理組織検体への展開
8. 古川 徹 (東北大学大学院医学系研究科分子病理学分野) ゲノム解析による膵臓がんの遺伝子異常の解明と増殖抑制遺伝子の発見
9. 池田 通 (東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科分子免疫病理学講座) 破骨細胞形成因子 RANKL アイソフォームの機能解析と臨床応用
10. 草深 公秀 (日本赤十字社医療センター病理部) 唾液腺原発多形性腺腫における軟骨様成分の形成機序
11. 猪山 賢一 (熊本大学医学部附属病院病理部) 基底膜 IV 型コラーゲン α 鎖分子の動態からみた癌の形態学: 特に、癌の初期浸潤における基底膜の異型性について

B 演説

1. 三浦 克敏 (浜松医科大学病院病理部) Phosphoglyceride crystal deposition disease 6 例の臨床病理学的特徴
2. 森 正也 (虎の門病院病理部) 細胞腺腫の臨床病理学的検討, 特に類洞様血管内皮細胞の毛細血管化について
3. 宇於崎 宏, 深山 正久 (東京大学医学部病理学教室), 中川 恵一 (東京大学医学部放射線学教室), 石川 隆俊 (東京大学医学部病理学教室 大学評価・学位授与機構), 土井 幹雄 (茨城県衛生研究所), 三澤 章吾 (東京都観察医務院), 前川 和彦 (原子力安全研究協会) 「放射線大量被ばくの病理」東海村臨界事故症例の病理解剖学的所見

4. 技術講習会 分子病理学の基礎技術—II「病理検体を用いた分子病理学的基礎技術」受講者募集

日本病理学会研究推進委員会は昨年に引き続き分子病理学領域の技術講習会を企画いたしました。本技術講習会は日本病理学会の事業として病理学領域における研究推進活動の一環として行うもので、昨年第一回が東京大学医科学研究所で行われ、好評でした。本年は第二回として下記の要領で参加者を募集しますので、会員諸氏にはふるってご応募されますようご案内申し上げます。

記

1. 日時: 2002年8月21日(水), 22日(木), 23日(金)
2. 場所: 九州大学医学部コラボステーション1F・共同セミナー室(講義)
九州大学形態機能病理学・病理病態学実験室(実習)
3. プログラム: 病理検体をおもな素材とする分子生物学的技術の講義(14コマ)と実習・見学(3コース)(詳細は以下にお問い合わせ下さい)
4. モデレーター: 小山田正人, 小田義直(研究推進委員)
5. 講義, 実習担当者: 研究推進委員および学会員約12名
6. 募集人員: 約20名
7. 参加費: 日本病理学会会員: 4万円; 非会員: 5万円
8. 応募, 問い合わせ, 決定:
 - (1) 受講希望者は, 受講を希望する旨と, 氏名, 所属, 会員・非会員の区別, 連絡先住所, E-mail address, もしくは FAX 番号を, 以下の連絡先へお申し込み下さい。
応募先: 社団法人日本病理学会事務局 (TEL: 03-5684-6886, FAX: 03-5684-6936, E-mail: jsp@ma.kcom.ne.jp)
内容の問い合わせ: 研究推進委員 小田義直 (九州大学大学院医学研究院・形態機能病理学) (TEL: 092-642-6067, FAX: 092-642-5968, E-mail: oda@surgpath.med.kyushu-u.ac.jp)
 - (2) 学会員は先着順に決定します。非会員は7月1日段階での空き分について受け入れます。
9. 宿舎は御自分で確保お願いいたします。
10. プログラムの詳細は病理学会ホームページ (<http://jsp.umin.ac.jp/>) をご覧ください。

5. Surgical Pathology Update 2002 (IAP) 参加者募集

今回は子宮体部と肺を取り上げます。Faculty は Course Director の Silverberg 教授, 長村(東海大), Mayo Clinic の JL Myers 教授, 清川貴子先生(慈恵医大), 松原(防衛医大)です。参加費は 45,000 円(IAP 日本支部会員), 50,000 円(非会員)。6月14日~16日の2泊3日の宿泊費, 食事(1日3食)代, スライド検鏡(事前にスライドグラス配付), ハンドアウト代などを含みます。参加をご希望の方は, 氏名, 性別, 所属先, 住所, 電話, FAX 番号, E-mail address, IAP 日本支部の会員か非会員を記入の上, FAX か, E-mail でお送り下さい。希望者が例年多いので, 早いもの順であり, 定員 50 名になり次第, 締め切ります。ほぼ同じころに申し込まれた場合は抽選とさせていただきます。参加決定者に

はあらためてご連絡します。

防衛医科大学校第2病理, IAP 日本支部事務局 (松原・佐々木) まで。

FAX 送信: 042-996-5193 または E-mail: matubara@cc.ndmc.ac.jp

6. 病理専門医資格更新者氏名

第4回 認定 126名

更新期間 平成14年(2002年)4月1日から5年間

認定番号	氏名	認定番号	氏名
827	今井 俊介	874	螺良 愛郎
828	由谷 親夫	875	米澤 傑
829	村尾 眞一	876	河端 美則
831	福永 真治	877	斉藤 澄
832	長谷川章雄	878	田久保海誉
833	浅野 重之	879	土橋 康成
834	宮崎 純一	881	小俣 好作
835	角田 力弥	882	瀧 和博
836	阿部 正文	884	中嶋 安彬
838	村山 寛	885	堤 寛
839	中西 敬介	886	岡田 保典
840	水上 勇治	887	高原 耕
843	岡 邦行	888	野原 雄介
845	山本 雅博	889	若木 邦彦
847	土屋 眞一	890	布山 繁美
848	赤木 制二	892	増田 弘毅
849	後藤 幹雄	893	村上 榮
850	西野 栄世	895	根本 則道
851	中川 仁	897	小野 巖
852	戸田 隆義	899	倉持 茂
853	桑原竹一郎	901	山田 和昭
854	石 和久	903	福本 学
855	方山揚 誠	904	徳田 忠昭
856	調 輝男	905	福田 利夫
858	吉原 渡	907	北村 均
859	広瀬 幸子	908	森 秀樹
860	井上 達	910	馬淵 基樹
861	中西 和夫	911	野々村昭孝
862	亀田 典章	912	中島 孝
866	松本 和基	914	井藤 久雄
867	羽野 寛	915	宮本 一雄
868	富地 信和	917	藤井 雅彦
869	大嶋 正人	918	田中 卓二
870	岡野 匡雄	919	川井 俊郎
871	岡田 英吉	921	糸山 進次
872	塩川 章	922	坪内 弘行
873	沼本 敏	923	山中 宣昭

925	栗原 憲二	961	林 逸郎
927	居石 克夫	962	三輪 淳夫
929	秋草文四郎	964	田口 尚
930	玉井 誠一	967	上野 洋男
931	橋本 洋	968	森 将晏
933	横田 忠明	970	木崎 智彦
934	山下 吉美	971	中山 雅弘
936	岩下 明德	972	大谷 明夫
937	豊島 里志	973	君塚 五郎
938	佐藤 慎吉	974	中野 雅行
939	川原 穰	975	柳澤 昭夫
940	菅野 勇	976	正和 信英
942	張ヶ谷健一	977	鎌田 満
943	桑尾 定仁	978	笹栗 靖之
944	榎本 克彦	979	関川 進
945	小橋陽一郎	980	吉田カツ江
946	森 一郎	981	岡田 収司
947	勝田 省吾	982	川並 汪一
948	島村 和男	983	辻本 志朗
950	下山 潔	986	青木 幹雄
953	江島 栄	987	中村仁志夫
954	亀田 陽一	988	蜂谷 哲也
955	佐野 仁勇	990	増田 高行
956	雑賀 興慶	991	上坂 佳敬
959	水口 國雄	992	小久保 武
960	高橋 達郎	996	藤盛 孝博

第9回 認定 46名

更新期間 平成14年(2002年)4月1日から5年間

認定番号	氏名	認定番号	氏名
1250	徳留 隆博	1272	樋野 興夫
1251	山鳥 一郎	1273	佐々木 惇
1253	森木 利昭	1274	上田 善彦
1254	岡田 仁克	1275	名方 保夫
1255	八木橋操六	1276	林 祥剛
1256	中島 明彦	1277	岸本 宏志
1257	濱田 哲夫	1278	中村 栄男
1258	矢島美穂子	1279	三浦 和典
1259	竹屋 元裕	1280	塩津 英俊
1261	佐々木なおみ	1283	笹原 正清
1262	川端 健二	1284	北川 昌伸
1263	溝渕 光一	1286	谷山 清己
1264	嶋本 文雄	1287	小川 晃
1267	松野 寧子	1288	流田 智史
1268	海上 雅光	1289	石亀 廣樹
1270	吉田 幸子	1290	橋本 和明
1271	滝本 雅文	1291	福田 剛明

1292	甲田 賢治	1299	和知 栄子	1884	南條 博	1916	澁谷 誠
1293	若狭 研一	1300	高橋 玲	1885	伴 聡	1917	小泉 宏隆
1294	丹野 正隆	1303	鈴木 恵子	1886	長尾 俊孝	1920	中岡 伸悟
1295	佐藤 英章	1304	鈴木 高祐	1888	田中 正則	1921	川島 篤弘
1296	佐藤 隆夫	1305	前多 松喜	1889	尾崎 大介	1922	村山 寿彦
1298	植村 芳子	1306	富永 邦彦	1890	黒住 昌史	1923	鄭 子文

第14回 認定 54名

更新期間 平成14年(2002年)4月1日から5年間

認定番号	氏名	認定番号	氏名	認定番号	氏名	認定番号	氏名
1565	下 正宗	1596	澤田 典均	1896	島崎 英幸	1927	久保起与子
1566	太田 善夫	1597	菅井 有	1897	稲垣 宏	1928	西阪 隆
1567	小西 登	1598	絹川 典子	1898	宮崎 龍彦	1929	石田 康生
1568	石田 剛	1599	吉田 尊久	1899	真能 正幸	1930	北村 幸郷
1569	新垣 有正	1600	小西 英一	1900	佐々木 豊	1931	星 サユリ
1570	藤田 眞幸	1601	堤 雅弘	1901	大原 信哉	1932	谷田部 恭
1571	加藤 元一	1602	中西 幸浩	1902	杉山 達朗	1933	酒井 優
1573	森谷 卓也	1603	細村 泰夫	1903	高橋 秀史	1934	比島 恒和
1574	立山 尚	1604	小野 伸高	1904	田代 幸恵	1935	内ヶ崎新也
1576	中川 温子	1605	今信 一郎	1905	小川 真紀	1938	石井源一郎
1577	九嶋 亮治	1607	村田 晋一	1906	荒木 章伸	1939	猪狩 亨
1578	勝田 浩司	1608	坂井田紀子	1907	濱田 新七	1940	西田 尚樹
1579	佐野 暢哉	1609	武内 利直	1908	川本 雅司	1941	山本智理子
1580	山田 健人	1610	岡本 茂	1909	寺村 一裕	1942	小賀 厚徳
1581	池田 栄二	1612	伊藤 裕司	1910	藤井 義幸	1943	石澤 伸
1582	田村 浩一	1614	河合 潤	1911	清久 泰司	1944	霧生 孝弘
1583	行岡 直哉	1615	宮石 理	1912	岩屋 啓一	1945	平林 紀男
1584	土橋 洋	1616	中山 敦雄	1913	宮沢 善夫	1946	迫間 隆昭
1585	村上 一宏	1617	石原 法子	1914	藤田 葉子	1947	細根 勝
1586	大島 孝一	1618	岩渕 三哉	1915	山上啓太郎	1949	羽鳥 努
1588	和田 勝則	1619	鈴木 良夫				
1589	清水 道生	1621	岩崎 啓介				
1590	細川 洋平	1622	勝山 栄治				
1592	増永 敦子	1623	鈴木 博義				
1593	大橋 健一	1624	野田 裕				
1594	寺田 信行	1625	川口 誠				
1595	蛭田 啓之	1626	北澤 荘平				

第19回 認定 71名

更新期間 平成14年(2002年)4月1日から5年間

認定番号	氏名	認定番号	氏名	認定番号	氏名
1871	長谷川 匡	1877	森光 洋介	514	板橋 正幸
1872	井上 健	1878	中澤 功		
1873	柴田 亮行	1879	斉藤 直敏		
1874	三枝 信	1880	福島 純一		
1875	星 暢夫	1881	関 邦彦		
1876	後藤田裕子	1883	木野 茂生		

第2回 認定 2名

更新期間 平成14年(2002年)4月1日から3年間

認定番号	氏名	認定番号	氏名
361	成松 英明	514	板橋 正幸

第3回 認定 2名

更新期間 平成14年(2002年)4月1日から4年間

認定番号	氏名	認定番号	氏名
652	桑島 実	768	門田 尚

第12回 認定 1名

更新期間 平成14年(2002年)4月1日から3年間

認定番号	氏名
1453	渡辺 宏志

第13回 認定 1名

更新期間 平成14年(2002年)4月1日から4年間

認定番号 氏名

1516 家本 陽一

7. 口腔病理専門医資格更新者氏名**第4回 認定 8名**

更新期間 平成14年(2002年)4月1日から5年間

認定番号 氏名

58 岡村 和彦 63 山崎 章

59 土井田 誠 64 安藤 紀昭

60 櫻井 一成 65 相田 順子

61 清水 進一 67 前田 初彦

第9回 認定 3名

更新期間 平成14年(2002年)4月1日から5年間

認定番号 氏名

85 佐々木 優 87 村松 敬

86 柴田 敏也

8. 平成14年度認定病院更新(第1, 3, 5, 7, 9, 11, 13, 15, 17, 19, 21, 23回
136病院)

期間2年間 平成14年4月1日～平成16年3月31日

第1回 認可(31施設)

認定番号 病院名

1001 市立札幌病院

2001 青森県立中央病院

2002 岩手県立中央病院

2003 国立仙台病院

3004 千葉県がんセンター

3005 国立がんセンター中央病院

3006 東京厚生年金病院

3007 国立国際医療センター

3008 NTT 東日本関東病院

3009 東京都老人医療センター

3010 国立病院東京医療センター

3012 聖路加国際病院

3014 同愛記念病院

3015 武蔵野赤十字病院

3016 川崎市立川崎病院

3017 横浜市立市民病院

3018 神奈川県立がんセンター

4001 新潟県立がんセンター新潟病院

4002 静岡済生会総合病院

4004 国立名古屋病院

5002 京都第一赤十字病院

5003 大阪赤十字病院

5005 天理よろづ相談所病院

5006 神戸市立中央市民病院

6001 (財)倉敷中央病院

6002 岡山済生会総合病院

6003 国立病院岡山医療センター

6004 県立広島病院

6006 社会保険広島市民病院

6007 国立岩国病院

6009 国立病院四国がんセンター

第3回 認可(7施設)

認定番号 病院名

1003 市立旭川病院

1004 北海道勤労者医療協会中央病院

3026 神奈川県立こども医療センター

6011 国家公務員共済組合連合会

呉共済病院

7004 国立長崎医療センター

7005 大分県立病院

7006 沖縄県立中部病院

第5回 認可(11施設)

認定番号 病院名

1005 市立函館病院

3032 東京都立駒込病院

4011 静岡県立こども病院

4012 静岡市立静岡病院

4014 三重県厚生農業協同組合連合会

松阪中央総合病院

5008 京都市立病院

5011 国立大阪病院

5014 大津赤十字病院

5015 大阪厚生年金病院

5016 国立循環器病センター

6013 総合病院岡山赤十字病院

第7回 認可(7施設)

認定番号 病院名

2008 医療法人明和会中通総合病院

3011 東京通信病院

3041 社会福祉法人三井記念病院

3043 東京都立広尾病院

5018 松下電器健康保険組合松下記念病院

6015 国立病院呉医療センター

6016 愛媛県立中央病院

第9回 認可 (6 施設)

認定番号	病院名
2010	(財)太田総合病院附属太田西ノ内病院
3049	大森赤十字病院
4020	労働福祉事業団中部労災病院
4021	名古屋掖済会病院
4022	岐阜市民病院
5023	兵庫県立成人病センター

第11回 認可 (8 施設)

認定番号	病院名
2011	八戸市立市民病院
3056	社会保険中央総合病院
3058	労働福祉事業団関東労災病院
4028	岡崎市民病院
5026	淀川キリスト教病院
5028	医療法人同仁会耳原総合病院
5029	国立大阪南病院
5030	京都民医連中央病院

第13回 認可 (9 施設)

認定番号	病院名
2014	いわき市立総合磐城共立病院
3065	栃木県立がんセンター
3066	足利赤十字病院
3067	前橋赤十字病院
3068	医療法人鉄蕉会亀田総合病院
4031	愛知県厚生農業協同組合連合会更生病院
4032	総合大雄会病院
5031	大阪警察病院

第15回 認可 (8 施設)

認定番号	病院名
3024	自衛隊中央病院
3074	千葉県こども病院
3075	東京都多摩老人医療センター
4037	石川県立中央病院
5034	星ヶ丘厚生年金病院
5035	医療法人愛仁会高槻病院
7015	社会保険小倉記念病院
7016	飯塚病院

第17回 認可 (5 施設)

認定番号	病院名
3078	国立佐倉病院
4039	山梨県立中央病院
4040	新潟県立中央病院

4041	福井赤十字病院
5038	京都第二赤十字病院

第19回 認可 (8 施設)

認定番号	病院名
3034	立正佼成会附属佼成病院
4013	岐阜県立岐阜病院
3038	国立精神・神経センター 国府台病院
3055	国家公務員共済組合連合会 総合病院横須賀共済病院
3083	川口市立医療センター
3084	船橋市立医療センター
4046	トヨタ記念病院
5042	(財)神戸市地域医療振興財団 西神戸医療センター

第21回 認可 (11 施設)

認定番号	病院名
5004	大阪府立成人病センター
2018	由利組合総合病院
2019	山形県立日本海病院
2020	鶴岡市立荘内病院
3087	総合病院取手協同病院
3088	成田赤十字病院
3089	東京医療生活協同組合 中野総合病院
3090	大和市立病院
4049	医療法人明陽会 成田記念病院
5045	特定医療法人徳洲会 岸和田徳洲会病院
5046	国立南和歌山病院

第23回 認可 (26 施設)

認定番号	病院名
3031	国保松戸市立病院
3042	東京都立豊島病院
4033	岐阜県立下呂温泉病院
2027	労働福祉事業団 青森労災病院
2028	財団法人 星総合病院
3100	埼玉医療生活協同組合 羽生病院
3101	国保直営総合病院 君津中央病院
3102	医療法人財団東京勤労者医療会東葛病院
3103	医療法人社団愛心会湘南鎌倉総合病院
4056	市立礪波総合病院
4057	医療法人慈泉会 相澤病院
4058	公立学校共済組合 東海中央病院
5052	市立長浜病院
5053	大津市民病院

5054 京都桂病院
 5055 市立池田病院
 5056 大阪府立羽曳野病院
 5057 市立堺病院
 5058 市立泉佐野病院
 5059 箕面市立病院
 5060 公立学校共済組合 近畿中央病院
 5061 神戸協同病院
 5062 財団法人甲南病院
 6029 香川医療生活協同組合 高松平和病院
 7023 長崎市立市民病院
 7024 宮崎県立延岡病院

9. 平成 14 年度登録施設更新

(第 1, 3, 5, 7, 9, 11, 13, 15, 17, 19, 21, 23 回 91 施設)

期間(2年間)平成 14 年 4 月 1 日～平成 16 年 3 月 31 日

第 1 回 認可(20 施設)

登録番号 病院名
 2004 福島県立会津総合病院
 3001 栃木県済生会宇都宮病院
 3003 国立高崎病院
 3009 国立霞ヶ浦病院
 3013 東京都教職員互助会三楽病院
 3020 青梅市立総合病院
 3021 国家公務員共済組合連合会立川病院
 3022 国立病院東京災害医療センター
 3023 けいゆう病院
 3026 平塚市民病院
 4008 名鉄病院
 4013 名古屋市立東市民病院
 4017 市立四日市病院
 4019 市立伊勢総合病院
 4020 近江八幡市民病院
 5006 国立療養所近畿中央病院
 5013 公立豊岡病院組合立日高病院
 7002 国立病院九州医療センター
 7005 日本赤十字社長崎原爆病院
 7007 国立別府病院

第 3 回 認可(3 施設)

登録番号 病院名
 1002 札幌社会保険総合病院
 5022 兵庫県立柏原病院
 7014 長崎労災病院

第 5 回 認可(3 施設)

登録番号 病院名
 3035 国家公務員共済組合連合会九段坂病院
 5026 関西電力病院
 5029 八尾徳洲会病院

第 7 回 認可(7 施設)

登録番号 病院名
 3037 上都賀総合病院
 3040 埼玉県立小児医療センター
 3042 千葉県救急医療センター
 3043 川崎製鉄健康保険組合千葉病院
 4034 南生協病院
 5031 大阪府済生会中津病院
 7027 国立療養所星塚敬愛園

第 9 回 認可(3 施設)

登録番号 病院名
 4037 佐久市立国保浅間総合病院
 4039 国家公務員共済組合連合会名城病院
 4040 総合病院中津川市民病院

第 11 回 認可(4 施設)

登録番号 病院名
 1004 労働福祉事業団釧路労災病院
 3062 東京都職員共済組合青山病院
 4045 みなと医療生活協同組合協立総合病院
 7031 唐津赤十字病院

第 13 回 認可(2 施設)

登録番号 病院名
 1006 国立療養所道北病院
 4051 医療法人社団健和会健和会病院

第 15 回 認可(7 施設)

登録番号 病院名
 3070 (財)東京都保健医療公社東部地域病院
 4055 福井県立病院
 4056 山田赤十字病院
 4057 松阪市民病院
 6020 岡山労災病院
 6021 三豊総合病院
 7036 労働福祉事業団九州労災病院

第 17 回 認可(3 施設)

登録番号 病院名
 3074 医療生協さいたま生活協同組合埼玉協同病院

4061 豊川市民病院
5048 市立伊丹病院

5066 財団法人田附興風会 北野病院
6015 徳島市民病院
7048 社会福祉法人恩賜財団済生会 川内病院

第19回 認可 (10 施設)

登録番号 病院名
1009 国家公務員共済組合連合会斗南病院
3080 国立療養所多磨全生園
4068 掛川市立総合病院
4069 榛原総合病院
4070 飯田市立病院
4071 大垣市民病院
4072 羽島市民病院
5050 社会保険京都病院
5051 加西市立加西病院
7041 今給黎総合病院

第21回 認可 (16 施設)

登録番号 病院名
1010 医療法人溪仁会手稲溪仁会病院
1011 美唄労災病院
1012 新日鐵室蘭総合病院
1014 医療法人徳洲会札幌徳洲会病院
1015 北海道社会保険病院
1016 NTT 東日本札幌病院
3084 放射線医学総合研究所重粒子治療センター
3085 (財)東京都保健医療公社多摩南部地域病院
4075 西尾市民病院
5056 高槻赤十字病院
5057 国家公務員共済組合連合会大手前病院
5058 姫路赤十字病院
5059 兵庫県立こども病院
6035 医療法人近森会近森病院
6036 福山市医師会総合健診センター
7043 医療法人親仁会米の山病院

第23回 認可 (13 施設)

登録番号 病院名
1019 医療法人王子総合病院
1020 函館中央病院
2018 岩手県立大船渡病院
2019 岩手県立胆沢病院
3086 草加市立病院
3087 恩賜財団済生会若草病院
4043 富山県厚生農業協同組合連合会 高岡病院
4078 清水市立病院
4079 労働福祉事業団 新潟労災病院
4080 一宮市立市民病院

お知らせ

1. 黒住医学研究振興財団第10回研究助成金の募集について

申込み締切り：平成14年6月28日
連絡先：(財)黒住医学研究振興財団事務局
〒113-8408 文京区本郷1-33-8
TEL：03-3812-3173 FAX：03-3813-2206

2. 平成14年度日本医師会医学賞・日本医師会医学研究助成費候補の推薦について

申込み締切り：平成14年7月2日
連絡先：日本医師会生涯教育課
〒113-8621 文京区本駒込2-28-16
TEL：03-3946-2121 (内線3241~2)

3. 第11回(平成14年度)木原記念財団学術賞の受賞候補者推薦について

申込み締切り：平成14年9月30日
連絡先：(財)木原記念横浜生命科学振興財団
〒244-0813 横浜市戸塚区舞岡町641-12
TEL：045-825-3487 FAX：045-825-3307

4. 第34回内藤記念科学振興賞・海外学者招へい助成金の受賞候補者の推薦について

申込み締切り：平成14年10月10日(海外学者招へい助成金前期は、平成14年6月3日、後期は、平成14年10月10日)
連絡先：(財)内藤記念科学振興財団
〒113-0033 文京区本郷3-42-6 NKDビル
TEL：03-3813-3005 FAX：03-3811-2917

5. 千里ライフサイエンス技術講習会について

- (1) 第29回「DNAチップの最新技術IV」
会期：平成14年6月28日
- (2) 第30回プロテオミクス技術講習会「電気泳動、質量分析、データ解析」
会期：平成14年7月5日
(1)、(2)とも
会場：千里ライフサイエンスセンター
連絡先：(財)千里ライフサイエンス振興財団技術課

習会事務局
 〒 560-0082 豊中市新千里東町 1-4-2
 千里ライフサイエンスセンタービル
 TEL: 06-6873-2001 FAX: 06-6873-2002

6. レーザー顕微鏡研究会第 28 回講演会について

会 期: 平成 14 年 7 月 4 日～5 日
 会 場: 富士写真フイルム (株) 本社ホール
 連絡先: 京都府立医科大学第二病理学教室
 〒 602-8566 京都市上京区河原町広小路梶井
 町 465
 TEL: 075-251-5322 FAX: 075-251-5353

7. 吉備路皮膚病理セミナーについて

会 期: 平成 14 年 8 月 23 日～25 日
 会 場: 岡山厚生年金センター
 連絡先: (株) 日本旅行岡山コンベンション事業部
 〒 700-0023 岡山市駅前町 2-1-7
 JR 西日本岡山支社内
 TEL: 086-225-9281 FAX: 086-225-9305

8. 2002 年度電子顕微鏡技術認定試験について

実施日: 平成 14 年 10 月 12 日
 連絡先: (社) 日本電子顕微鏡学会技術認定委員会庶務係
 〒 113-8622 文京区本駒込 5-16-9
 (財) 日本学会事務センター内
 TEL: 03-5814-5801 FAX: 03-5814-5820

9. 国際アロマターゼ会議 2002 について

会 期: 平成 14 年 10 月 26 日～30 日
 会 場: 京都都ホテル
 連絡先: 東北大学大学院医学系研究科医科学専攻病理学
 講座病理診断学分野国際アロマターゼ会議
 2002 事務局 鈴木 貴
 〒 980-8575 仙台市青葉区星陵町 2-1
 TEL: 022-717-7450 FAX: 022-273-5976

10. 平成 14 年度厚生労働科学研究費補助金に係る研究課題の公募の改訂について

標記に係る手続きについては、「平成 14 年度厚生労働科学研究費補助金公募要項 (改訂版)」により行われることとなりましたのでご注意ください。

連絡先: 厚生労働省大臣官房厚生科学課研究助成係
 TEL: 03-5253-1111 (内 3809)
 FAX: 03-3503-0183

当該要項は、厚生労働省ホームページ (<http://www.mhlw.go.jp/wp/kenkyu/index.html>) に掲載され、申請様式 (研究計画書) についてもダウンロードができます。

11. 第 2 回老化促進モデルマウス (SAM) 国際会議について

会 期: 平成 15 年 7 月 21 日～23 日
 会 場: 北海道大学学術交流会館
 連絡先: 北海道大学大学院薬学研究科
 第 2 回老化促進モデルマウス (SAM) 国際会議事務局
 〒 060-0812 札幌市北区北 12 条西 6 丁目
 TEL: 011-706-3246 FAX: 011-706-4987

2002 年度 病理学教育セミナーのお知らせ

IAP 日本支部主催、日本病理学会後援

日 時：平成 14 年 11 月 16 日（土）9:00～17:15

場 所：岡山大学医学部（岡山市）

世話人：赤木 忠厚（岡山大学大学院医歯学総合研究科腫瘍制御学講座
病理・病態学分野（旧病理学第二講座））

教育シンポジウム 9:00～12:00

主 題：病理標本から見た感染症

モデレーター：向井 清（東京医科大学病理学第一講座）

根本 則道（日本大学医学部病理学講座）

1. 組織切片における病原体の検出
堤 寛（藤田保健衛生大学医学部病理学講座）
2. 病理標本で見る寄生虫
安治 敏樹（岡山大学大学院医歯学総合研究科免疫分野）
3. 新興・再興感染症（HHV-8 関連病変を含む）の病理
倉田 毅、佐多徹太郎（国立感染症研究所病理部）
4. Virus associated hemophagocytic syndrome
定平 吉都（川崎医科大学病理学講座）
5. 日常診療における AIDS の病理
船田 信顕（東京都立駒込病院病理科）
6. ヒト・プリオン病の病理像
堂浦 克美（九州大学大学院医学研究院附属脳神経病研究施設）

◎ 当日はご自由にご参加ください（会場費 3,000 円、ハンドアウト代含む）。その時に病理専門医の更新に必要な参加証をご用意いたします。5 単位が得られます。

スライドセミナー 13:00～17:15

1 時限目 13:00～15:00

- | | |
|----------------|-------------------------|
| *A-1 脳実質腫瘍 | 中里 洋一先生（群馬大第一病理学） |
| *B-1 悪性リンパ腫の病理 | 田丸 淳一先生（埼玉医大総合医療センター） |
| C-1 乳腺の病理と細胞診 | 土屋 眞一先生（長野県がん検診・救急センター） |
| D-1 精巣腫瘍 | 森永正二郎先生（北里研究所病院） |

2 時限目 15:15～17:15

- | | |
|--------------------------|--------------------|
| *A-2 胸腺上皮性腫瘍 | 向井 清先生（東京医大第一病理学） |
| *B-2 前立腺の病理 | 三上 芳喜先生（川崎医大病理学） |
| C-2 骨の病理
（腫瘍および腫瘍様病変） | 野島 孝之先生（金沢医大臨床病理学） |
| D-2 腎（腎生検を含む）の病理 | 田口 尚先生（長崎大第二病理学） |

*印は新規のものです。

病理専門医の資格更新単位として 10 単位が得られます。

連絡先：IAP 日本支部教育委員長

〒173-8610 東京都板橋区大谷口上町 30-1

日本大学医学部病理学講座

根本 則道

TEL 03 (3972) 8111 (内 2256)

FAX 03 (3972) 8163

IAP 日本支部事務局

〒359-8513 所沢市並木 3-2

防衛医科大学校病理学第二講座

松原 修

TEL 042 (995) 1507

FAX 042 (996) 5193